



日本統計学会 会報 2026.04.30 No. 207

発行—— 一般社団法人 日本統計学会
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5F
公益財団法人 統計情報研究開発センター内 日本統計学会事務局
Tel & Fax : 03-3234-7738
編集責任—青嶋 誠(理事長) / 坂田 綾香(庶務理事)
朝日 弓未(広報理事) / 田島 友祐(広報委員)
趙 宇(広報委員)
振替口座—00110-3-743886
銀行口座—みずほ銀行九段支店普通 1466879番

JAPAN STATISTICAL SOCIETY NEWS

目次

- | | |
|---|----------------------------------|
| 1. 巻頭随筆：人柱たちとRの夜明け…中間栄治… 1
日本のRコミュニティとともに27年
……………岡田昌史… 2 | 5. 社員懇談会報告（2026年03月06日開催）…………… 7 |
| 2. 統計検定成績優秀者……狩野 裕・青嶋 誠… 3 | 6. 博士論文・修士論文の紹介……………10 |
| 3. 統計検定合格者の声……狩野 裕・青嶋 誠… 4 | 7. 新刊紹介……………11 |
| 4. 理事会・委員会報告（2026年02月08日開催）… 5 | 8. 学会事務局から……………11 |
| | 9. 投稿のお願い……………12 |

1. 巻頭随筆

人柱たちとRの夜明け

中間 栄治（株式会社金沢エンジニアリングシステムズ）

かつて、統計を持続的に学び、あるいはそれを自由に役立てるための手段がなかったように思う。私が統計に対して抱いていた欲求は、至極単純なものだった。そのアルゴリズムの深淵でどのような処理が行われているのかという機序を克明に知りたいという知的好奇心と、そこから得られた知見を、自分なりの言葉と文脈で表現したいという、素朴な欲求だった。

そんな折、仕事の合間に不意に訪れた空白の時間——あまりの「暇」に、私は一種の現実逃避として、Rの日本語化を始めた。

当時のRは、とにかくよく「落ちた」。世の中で「落ちて」喜ばれるのは洗剤くらいなもので、ソフトウェアが頻繁に落ちては、計算どころではない。私は安定化をはかりつつ、同時に日本語化、国際化への修正コードを書き連ねた。

パッチを世に問うとき、その不確かな糸を、誰よりも早く掴み、自らの環境というリスクを冒してまで歩を進めてくれた人々がいる。「人柱」で

ある。

「人柱」とは最も勇敢で献身的な先駆者の称号に他ならない。彼らが差し出してくれたエラーログや、時に手厳しい報告のひとつひとつが、荒削りだったパッチを研磨し、確かな「R」へと変えてくれた。やがてその営みは本家にも波及し、今日のRに至っている。

ところでそんな私の渴望に応える、Rには決定的な機能がかった。それが『Sweave』である。解析の目的、データの特徴、実行されるプログラム、そして出力されるグラフと結果。これらが寸分の隙もなく一体となり、一つの「文章」として記述できる。その整合性と美しさに、私は言葉を失うほどの感銘を受けた。まさに「文芸的統計プログラミング」である。

さて、昨今の自由統計ソフトウェア（言語は問わない）を取り巻く状況を眺めていると、拭きたい懸念を抱かずにはいられない。

世には「無料であること」を殊更に掲げ、あた

かもそれが最大の免罪符であるかのように語るものもある。しかし、その謳い文句に誘われ、受動的にツールを享受するだけの徒と化してはいないだろうか。もちろん、能動的に統計手法を吟味し、アルゴリズムを精査し、自らの意思でツールを選択している者は良い。だが、単に「無料だから」という理由だけでそれらに依存する者は、危うい均衡の上に立っている。もし、そのツールの開発が突如として終わりを告げたとき、彼らは路頭に迷い、自らの足で歩む術を失ってしまうのではないか。

統計処理とは、本来極めて能動的な営みである。どの手法を用い、いかなる論理を組み立てるか。その一つひとつの選択に解析者の主体性が宿

らねばならない。そこに「無料」や「フリー」という記号ばかりが独り歩きしていることに、私は強い違和感を覚えるのだ。

私たちが真に求めるべきは、コストの不在ではなく、自らの手で解析を完結させ得る「能動性」であり、何ら制限なくそれを伝える術である。内部の機序を問わず、ただ与えられた機能を消費するだけの姿勢を続けるならば、早晚、その統計処理の座は AI に取って代わられるだろう。

統計処理の主権を AI に明け渡しぬためには、単なる「利用者」であることを辞め、能動的な「探求者」であらねばならない。自立した意思によって道具を飼い慣らす。それこそが、本来あるべき姿ではないだろうか。

日本の R コミュニティとともに27年

岡田 昌史 (新医療リアルワールドデータ研究機構株式会社)

今回あらためて、R の日本でのコミュニティの草創期を振り返るため、自宅サーバに保管しておいた学生時代以来のメールを掘り返してみたところ、どうやら私にとってはその起点は1999年4月にあったようだ。実に27年前のことだが、その春大学院に入学したばかりの私が、ij ニュースグループで見つけた山本氏の R 文書翻訳者募集をみつけ、協力させてもらいたいとメールを送っていた。同様に協力を申し出た5名の皆様との間で、作業用にメーリングリストを作成しよう、ということになり、たまたま筑波大学で研究室サーバの管理をしていた私が「R-jp ML」を立ち上げたのが私にとっての R との本格的なかかわりのスタートであった。その後、当時流行しはじめていた Wiki に個人的に興味を持ち、2003年06月11日に R のための Wiki というこで、RjpWiki を立ち上げている。ここに多くの皆様が見聞を書き込んでいただき、書籍の執筆やメッセージ日本語化につながった。何回かのアドレス変更を経たが、現在も運用を続けている。

さて、ではなぜメーリングリストを作り、Wiki

を現在に至るまで運用しているのか。私は決して活発な投稿者でもなく、記事作成量もそれほど多くはなかった。管理をしているというだけで、コンテンツについては集まっていただけ皆様へ頼りきりであった。ただ、誰でもアクセスできる情報交換の場所が必要、という思いは当初から強くあったように思う。おそらくそれは、学部生時代から Linux の日本のコミュニティの熱気に触れていたためだろう。まだつくばエクスプレスもない時代、実際のイベントに参加する機会こそ少なかったが、ネットニュースを通じてコミュニティに参加している気分になっていたのだ。Linux のコミュニティでは、たしか「タコにやさしく」といった表現で、調べればわかることを質問してくる初心者者を排除しないようにしよう、という雰囲気がつくられていた。ともすれば、技術コミュニティでは、質問する前にググれ、というような言い方をしてしまいがちだが、そういう質問を文書にまとめて公開しておくことで、FAQ に代表されるドキュメントが整備されていくのだから、どんな質問でも大事にしよう、という趣旨であった

と思っている。私自身この雰囲気にだいぶ助けられてきたので、Rを多くの皆さんに使ってもらうためには、気軽に質問できる場所が必要、という思いがあった。

そしていまではAIの時代である。すでにググることも死語になりつつあり、コーディングエージェントはプロンプトを精密に書くことさえ怠らなければ、どんな解析コードでも数分で出力してくれる。しかしそれでも、AIが自分の経験として持っていない問題に直面したときに参照してくるのは、X, reddit, CrossValidatedといったコミュニ

ニティサイトで、過去に行われた議論の内容である。人間同士の議論は不正確かもしれないが、良い読者であるAIはそこから本質を見出し、新たな入門者に情報を伝えてくれる。そこに誰も質問しなくなったら、回答内容も進歩することはない。

AIは優しく、どんな質問でも答えてくれる。しかし、AIの回答に納得がいかないとき、ぜひコミュニティに質問をしてみしてほしい。少し厳しい言葉もあるかもしれないが、親切で示唆に富んだ返答がなされることだろう。

2. 統計検定成績優秀者

狩野 裕 (日本統計学会会長)
青嶋 誠 (日本統計学会理事長)

2025年11月16日に統計検定が行われました。以下に、各試験種別の合格者のうち、成績優秀者でかつ公開に同意された方々の氏名を掲載します。掲載は姓の五十音順です(敬称略)。また以下の情報は統計検定のホームページでも公開しております。

統計検定1級「統計数理」

最優秀成績賞(S): 秋山昌晴, 安達充慶, 奕涵豊, 梅原巧実, 甲斐崎稔樹, 上條鷹大, 木下裕人, 田中裕吏, 坪根遼, 鳥光俊佑, 中野颯, 西岡莉功, 樋川達郎, 幕田涼, 松井涼一郎

優秀成績賞(A): 會澤修也, 赤松春樹, 栗野稜也, 上野学, 上村真一, 大澤裕一, 大宮拓朝, 大山豪士, 岡崎晃一, 岡崎力也, 奥住直人, 片岡佑太, 金古翔, 喜多尚之, 木村和貴, 久保田仁, 高沼利幸, 小原悠, 佐藤卓弥, 鈴木貴広, 高橋樹, 高橋慶多, 高橋凜太郎, 立原礼也, 谷口誠弥, 塚崎貴文, 角田充弘, 野見山和大, 福村航, 布勢勝久, 古橋史崇, 松雪敬寛, MANPINKWAN, 役

山真柊, 矢後優翔, 山本耕平, 渡邊雄也

統計検定1級「統計応用」

最優秀成績賞(S): 青島佑樹, 安達充慶, 栗野稜也, 奕涵豊, 池澤哲, 梅原巧実, WANGWEIYU, 岡崎力也, 菊入雅史, 小原悠, 須藤瑞生, 高橋凜太郎, 瀧祐介, 中村晃綺, 二宮勇太, 原直哉, 樋川達郎, 松山紘也, 役山真柊, 柳田真輝, 吉開泰裕, 和田佳樹

優秀成績賞(A): 秋葉達也, 伊藤圭汰, 上村真一, 大野航輝, 片岡佑太, 金原優太, 上條鷹大, 亀丸敏久, 加茂佳吾, 河原木陽斗, 木下裕人, 木村和貴, 近藤彪生, 佐藤爽太, 世木辰典, 高橋樹, 田籠心太郎, 立原礼也, 田中裕吏, 中島聡史, 西岡莉功, 濱田朋宏, 平岡弦己, 福嶋竜希, 古橋史崇, 舛谷万象, 松井涼一郎, 水原朔, 横尾城太郎, 李明易

このうち、特に優秀な内容で満点を取得した方に「統計質保証推進協会 会長賞」を贈呈しています。

3. 統計検定合格者の声

狩野 裕 (日本統計学会会長)
青嶋 誠 (日本統計学会理事長)

統計検定 1 級「統計応用」

王 偉宇 (WANG WEIYU) さん (関西学院大学
大学院社会学研究科 博士後期課程 1 年)

「統計手法を理解・調整するための第一歩」

私は社会心理学を専攻しており、日々様々な統計手法を用いて研究を行っています。しかし、分散分析や因子分析などを「使う」ことはできても、その背景にある数理的な理解が浅く、先行研究の読解や分析の妥当性判断に限界を感じていました。そこで、心理統計学を専門とする先生から「本格的に学ぶなら統計検定 1 級または準 1 級を目指すべき」との助言をいただき、受験を決意しました。

学習にあたっては、未履修だった線形代数の基礎を教養書と豊田秀樹先生の『統計のための線形代数』で固めました。その上で、久保川達也先生の『現代数理統計学の基礎』を主軸に理論学習を進めました。当初、演習問題には全く歯が立ちませんでした。解答の行間を数式で埋めながらトレースし、粘り強く手を動かすことで理解を深めました。また、心理統計学へのより深い理解を目指して、因子分析と項目反応理論などの専門書も併読しました。その結果、両分野に合格し、応用分野ではまさかの最優秀賞をいただくことができました。

体系的な知識が身についたことで、現在は既存の手法を理解・適用にとどまらず、既存の潜在変数モデルの調整や拡張も試みています。そこで、1 級合格はあくまで勉強のスタート地点にしか過ぎないと感じました。数理最適化、ベイズ推定のアルゴリズムなど、さらにカラフルな世界がその先で私たちを待っています。生成 AI の台頭など統計学を取り巻く環境は日々変化していますが、今後も最新の知見を吸収し続け、社会心理学と心

理統計学両方を楽しんでいきたいと考えています。

統計検定 1 級「統計数理」

角田 充弘さん (公務員)

「君ならできる」と信じてくれた先生へ、統計検定 1 級で叶えた伏線回収」

私は現在、公的機関で水産研究の仕事に携わり、研究の中で統計モデルを活用しています。本格的な数理統計学を学び、統計解析の理論面を深めるため、統計検定 1 級の勉強を行いました。学習を始めると、統計検定 1 級の試験は単なるデータ分析ではなく、本格的な数学を骨組みとした思考力の試験であることが分かりました。

私は大学では生物系の学部を選択し、現在もフィールドワークを中心とした研究を行っていますが、本当はもっと数学を学びたかったという後悔がありました。私が数学を好きになった理由は、高校の先生との出会いにあります。先生は私自身以上に、私の考え方や数学の解き方を評価してくださり、初めて高順位を取ったときでさえ「こんなもんじゃないでしょ」と声をかけてくださいました。私の可能性を信じてくれたその言葉が心に残り、「もう一度自分の可能性を信じてみよう」と思えたことが、今回の試験への挑戦につながったと感じています。

仕事と両立しながらの学習は決して簡単ではありませんでしたが、試験問題からは想像以上に多くの学びを得ることができました。統計検定 1 級の問題は、統計学が高校数学から続く土台の上に成り立ち、実務的な推定や、より多様な可能性を考慮した分析につながっていることを教えてくれます。例えば「相加平均と相乗平均の関係」は高校数学で学んだ内容ですが、それが統計学では

「標本から構成される推定量の分散の比較」に結びついていることを、私はこの試験問題を通して初めて知りました。統計検定1級の問題を解くことは、高校数学にちりばめられた伏線が回収されていくような体験であったと感じています。

今後、よりデータ分析や数理設計に携わるポジションでの挑戦を検討している私にとって、今回の統計数理の合格はキャリア上の重要な節目です。しかし何より、先生が教えてくれた数学を今も楽しみ、挑戦と学びを続けていることの証であると感じています。

統計検定1級「統計数理」

高沼 利幸さん（非公開）

「統計学は最強」と信じ続けて—50代からの1級挑戦」

私は50代のオジサンです。統計検定の勉強をされる方々にはお馴染みの先生かと思いますが、30年以上前の大学生時代には竹村先生の授業も久保川先生の授業も受講しました。統計学の大家である国友先生のゼミにも参加させていただいたので、統計学は大学生の時代から大好きで、某書籍名ではないですが、「統計学が最強の学問」であるとずっと思っています。

金融機関に勤めており、日々、株式市場や債券市場の金融データを見る中で、もう一度しっかり統計学を勉強しようと思い、当面の目標として統計検定1級を考えました。

試験6ヵ月前から、久保川先生の『現代数理統計学の基礎』を読み始めました。最初にパラパラとページをめくってざっと見た時には、「これ昔やったなあ」と思いだすものもあったのですが、いざ章末の演習問題に取り組むとほとんど解けず、やばいなあと思いながらもひたすら愚直に問題演習を繰り返し、試験3ヵ月前からは、仕事から帰宅し寝るまでの時間のほとんどを問題演習に費やし、『現代数理統計学の基礎』を何とか2周しました。

試験当日に問題を見た時には、問題傾向の変化に狼狽したのですが、試験中は「とにかく誘導に従って素直に解こう」と必死に答案を書きました。終了後は不合格と思っていたので模範解答を見ることもしませんでした。結果は予想外に合格でした。

合格自体は望外の喜びですが、50代で遅ればせながら統計を扱う専門家のスタートラインに立ったことを胸に、仕事でも統計学の知識を活用していきたいと思います。

4. 理事会・委員会報告（2026年02月08日開催）

一般社団法人 日本統計学会 理事会

日時：2026年2月8日（日曜日）午後1時00分～午後2時19分

場所：筑波大学 自然系学系棟 D802

オンライン理事会として実施

Zoom（ミーティング ID: 872 4077 7159）

理事の総数 14名 出席理事の数 12名

監事の総数 3名 出席監事の数 2名

出席者：

理事：狩野裕会長、青嶋誠理事長、坂田綾香（庶務）、明石郁哉（庶務）、白石博（会計）、丸山祐造（JJSD）、荒木由布子（会誌編集和文）、寺田吉壺（大会／企画・

行事）、江村剛志（国際）、清智也（国際）、長尾大道（渉外）、竹内光悦（教育）

（以上12名、括弧内は役割分担）

監事：照井伸彦、川崎能典

第1議案 臨時委員会における委員の交代について

青嶋理事長より、資料に基づき、多様性推進特別委員の交代について提案がなされ、審議の結果、承認が得られた。

Wu Stephen 委員、小野陽子委員、菅由紀子委員、黒木学委員、下平英寿委員、廣瀬慧委員、松井知子委員、渡辺美智子委員より坂田綾香委員、田栗正隆委員、Dou

Xiaoling 委員, 仲真弓委員, 二宮嘉行委員, 松井秀俊委員, 室谷健太委員, 廣瀬雅代委員, Xin Guan 委員に交代 (2026年4月1日付)

第2議案 臨時委員会における委員の再任について

青嶋理事長より, 資料に基づき, 多様性推進特別委員の再任について提案がなされ, 審議の結果, 承認が得られた.

荒木由布子委員, 南美穂子委員を再任 (2026年4月1日付)

第3議案 2026年度事業計画について

青嶋理事長より, 資料に基づき, 2026年度事業計画の提案がなされ, 審議の結果, 承認が得られた.

第4議案 2026年度予算について

白石会計理事より, 資料に基づき, 2026年度予算の提案がなされ, 審議の結果, 承認が得られた.

第5議案 JJSD 支援委員会運用規則について

丸山 JJSD 理事より, 資料に基づき, JJSD 支援委員会運用規則の提案がなされ, 審議の結果, 承認が得られた.

第6議案 社員総会招集の件

狩野会長より, 社員総会開催に関する提案がなされ, 承認が得られた.

1. 日時 2026年5月30日 (土曜日) 午後1時00分から
2. 場所 筑波大学 自然系学系棟 D802 (オンライン)
3. 会議の目的事項

(1) 社員総会における通常の審議

第7議案 会員の入退会

青嶋理事長より, 回収資料に基づき入退会希望者が紹介され, 審議の結果, 承認が得られた.

一般社団法人 日本統計学会 委員会

日時: 2026年2月8日 (日曜日) 午後2時19分~午後3時40分

場所: 筑波大学 自然系学系棟 D802

オンライン理事会として実施

Zoom (ミーティング ID: 872 4077 7159)

出席: 理事12名, 監事2名, 委員0名, 計14名

狩野裕会長, 青嶋誠理事長, 坂田綾香, 明石郁哉, 白石博, 丸山祐造, 荒木由布子, 寺田吉壺, 江村剛志, 清智也, 長尾大道, 竹内光悦

照井伸彦 (監事), 川崎能典 (監事)

<報告事項>

1. JJSD 支援委員会

丸山委員長より, JJSD の編集状況について報告がなされた.

2. 和文誌編集委員会

荒木委員長より, 和文誌の編集状況について報告がなされた.

3. 大会委員会

寺田委員長より, 春季集会の準備状況について報告がなされた.

4. 企画・行事委員会

寺田委員長より, 2027年3月の春季集会の日程・会場について報告がなされた.

期日: 2027年3月6日 (土)

会場: 順天堂大学浦安・日の出キャンパス2号館 (千葉県浦安市)

5. 庶務委員会

坂田委員長より, 以下の報告がなされた.

・後援行事の報告

・第19回データビジネス創造コンテスト (2025年9月13日)

・学術会議公開シンポジウム (2026年2月17日)

・後援依頼の承諾

名称: 「データ利活用シンポジウム~データから読み解く地方の将来像~」

開催日時: 2026年1月29日 (木) 13時30分~16時30分

場所: 和歌山城ホール 4階大会議室 (和歌山県和歌山市七番丁25-1)

主催: 総務省, 独立行政法人統計センター, 和歌山県
後援 (予定): 関西広域連合, 一般社団法人日本統計学会, 一般財団法人日本統計協会, 公益財団法人統計情報研究開発センター

・名古屋市立大学 データサイエンス研究科博士後期課程 (仮称) 設置にかかる要望書依頼

・ウェブ名簿の運用方針について

6. 広報委員会

なし

7. 国際関係委員会

江村委員長より, Ecosta2026についての報告がなされ

た。また清委員より2026年度の JSS-KSS-CSA/CIPS joint sessions および IMS-APRM 2026 香港についての報告がなされた。

8. 渉外委員会

長尾委員長から、JJSD に関する Springer Nature への支払いについての報告がなされた。

9. 質保証委員会

なし

10. 統計教育委員会

竹内委員長より、資料に基づき活動報告がなされた。

11. ISI 東京大会記念基金運営委員会

樋口委員長の代理で青嶋理事長より、資料を用いて、2027年 ISI 世界統計大会 (ISI World Statistics Congress) の開催場所の変更について、報告がなされた。

12. その他

多様性推進特別委員会の南委員長の代理で、青嶋理事長より、男女共同参画連絡会の正式加盟学協会に日本統計学会が加わったことについて、報告がなされた。

4. 企画・行事委員会

なし

5. 庶務委員会

なし

6. 広報委員会

なし

7. 国際関係委員会

なし

8. 渉外委員会

なし

9. 質保証委員会

なし

10. 統計教育委員会

なし

11. ISI 東京大会記念基金運営委員会

なし

12. その他

なし

<審議事項>

1. JJSD 支援委員会

なし

2. 和文誌編集委員会

なし

3. 大会委員会

なし

今後の予定

2026年3月6日(金) 18:00 社員懇談会(オンライン)

2026年3月7日(土) 第20回日本統計学会春季集会
(同志社大学)

2026年5月9日(土) 13:00 理事会(オンライン)

2026年5月30日(土) 13:00 社員総会(オンライン)

5. 社員懇談会報告 (2026年03月06日開催)

一般社団法人 日本統計学会 社員懇談会議事録

日時: 2026年3月6日(金曜日) 午後6時00分~午後7時09分

開催形式: Zoom (ミーティング ID: 871 0904 5482)

報告事項 (理事会報告)

1. 常設委員会における委員の交代について

青嶋理事長より、資料に基づき、常設委員会の委員の交代について報告がなされた。

2. 臨時委員会における委員の交代・再任について

青嶋理事長より、資料に基づき、臨時委員会における委員の交代・再任について報告がなされた。

3. 2026年度事業計画について

青嶋理事長より、資料に基づき、2026年度事業計画について報告がなされた。

4. 2026年度予算について

青嶋理事長より、資料に基づき、2026年度予算の報告がなされ、白石会計理事により補足説明が行われた。

5. 男女共同参画学協会連絡会への正式加盟について

青嶋理事長より、男女共同参画学協会連絡会への正

2026年度事業計画

(2026.4.1～2027.3.31)

I. 出版編集事業

1. 和文誌の発行
和文誌2号[第56巻シリーズ]第1号(9月)、第2号(3月)を発行する。
2. Japanese Journal of Statistics and Data Scienceの編集人の参加・協力
3. 会報の発行
No.207(4月)、No.208(7月)、No.209(10月)、No.210(1月)を発行する。
4. 統計学に関わる書籍を刊行する。

II. 内外学界交流事業

1. 日本統計学会第94回大会の開催
2026年9月6日～10日の5日間(にわたり、横浜市立大学 金沢入寮キャンパス)において開催する。統計関連学会連合大会の一環として開催する。
2. 春季集会の開催
2027年3月6日に、順天堂大学浦安・日の出キャンパス2号館において第21回春季集会を開催する。
3. 研究分科会の活動
現在活動中の以下の分科会に加え、新規に活動を開始する分科会を随時募集する。

┆

∞

┆

- ・統計教育分科会
- ・計量経済・計量ファイナンス分科会
- ・女性統計家・データサイエンティスト育成分科会
- ・スポーツデータサイエンス分科会
- ・統計若手交流推進分科会
- 4. ダイバーシティの推進

5. 臨時委員会「多様性推進特別委員会」により、学会における多様性の推進に努める。

6. 国際学会、国際統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッションへの協力

- ・台湾統計学会、国際統計学会、韓国統計学会、日本統計学会共同開催の国際セッションへの協力

- ・IMS-APRMへの協賛

- ・国際ベイズ分析学会 2026年世界大会への後援

7. 会員に有益と思われる学会やシンポジウムを後援する。

8. 他の組織が行う賞選考に対して学会推薦を行う。

III. 会員関係事業

1. 賞の授与

学会活動の活性化促進のため、以下の賞を会員等に授与する。

- 第31回日本統計学会賞

- 第6回日本統計学会中村隆英賞

- 第22回日本統計学会統計活動賞

- 第22回日本統計学会統計教育賞

- 第20回日本統計学会研究業績賞

- 第19回日本統計学会出版賞

- 第40回日本統計学会小川研究奨励賞

- 第8回細谷賞

2. 各種委員会の活動

- 年2回社員総会を開催する。

- 年4回理事会を開催する。

- 年1回役員・代議員協議会を開催する。

- 年1回春季集會準備会議を開催する。

- その他の各種委員会を適宜、開催する。

3. 広報活動の充実

メールアドレスの使用やホームページの充実により、各種情報発信を促進する。

会員名簿を発行する。

日本統計学会公式 Youtube チャンネルを通じて、講演動画を会員向けに配信する。

4. 入会者の拡大

春季集會等の機会を利用し、若手の研究者の拡大を促進する。

統計検定の合格者を対象とし、統計利用者の拡大を促進する。

会員限定の情報や講演動画の配信を行い、企業に所属する実務家も含めた多様な新規の入会者を拡大する。

IV. 啓発普及事業

1. 「統計検定」の実施協力

一般財団法人統計品質保証推進協会が実施する「統計検定」の認定団体として、統計検定に関する書籍を刊行する。

2. MOOC による統計学講座の提供

MOOC による統計学の講座を開講するとともに、講座に関わる書籍を刊行する。

3. 統計教育関連事業の推進

小中高および大学における統計教育に支援・協力するとともに、集会の開催や後援を行う。また統計教育人材育成に貢献する。また統計教育の重要性を発信する。

式加盟について報告がなされた。

6. 会員の入退会

青嶋理事長より、回収資料に基づき、入退会希望者が報告された。

7. その他

青嶋理事長より、9月の役員・代議員協議会と3月の社員総会または社員懇談会の日程について、変更の可能性のある旨の報告があった。

報告事項（委員会報告）

1. 第20回春季集会について

青嶋理事長より、2026年3月7日（土）に、同志社大学（遠隔でのオンライン参加も可能）にて開催される第20回日本統計学会春季集会について説明がなされた。

2. 2026年度統計関連学会連合大会について

青嶋理事長より、2026年9月6日（日）～10日（木）に、2026年度統計関連学会連合大会が横浜市立大学金沢八景キャンパスにて開催される旨が報告された。

3. 日本統計学会各賞について

狩野会長より、資料に基づき、日本統計学会各賞の

募集期間が2026年3月23日（月）までであることが報告された。

4. その他

横断型基幹科学技術研究団体連合 コトづくりコレクションについての意見交換

2027年ISI世界統計大会(ISI World Statistics Congress)の開催場所の変更についての報告

報告事項（その他）

1. 今後の日程

2026年3月7日（土）9：30

日本統計学会春季集会：同志社大学
（オンライン参加も可能）

2026年5月30日（土）13：00

社員総会：オンライン

2026年9月6日（日）～10日（木）

統計関連学会連合大会：横浜市立大学金沢八景キャンパス

2. その他

なし

6. 博士論文・修士論文の紹介

最近の博士論文・修士論文を紹介いたします。

(1)氏名 (2)学位の名称 (3)取得大学 (4)論文題名 (5)主査または指導教員 (6)取得年月の順に掲載いたします。

修士論文

● (1)小河晟汰 (2)修士（数理科学）(3)東京大学 (4)ノイズを含むタイムラグ付き伊藤過程におけるリードラグパラメータの推定 (5)小池祐太 (6)2026年3月

● (1)芹川祐輔 (2)修士（数理科学）(3)東京大学 (4)Improvement of threshold-based estimation for a continuous-time factor model (5)小池祐太 (6)2026年3月

● (1)田屋元氣 (2)修士（数理科学）(3)東京大学

(4)高頻度データに基づくボラティリティ推定における C_p 規準の理論的妥当性 (5)小池祐太 (6)2026年3月

● (1)朝倉萌 (2)修士（数理学）(3)九州大学 (4)MOSFET Id-Vds 特性の混合モデルを用いた二段階フィッティングと予測区間の推定 (5)廣瀬慧 (6)2026年3月

● (1)山本有流 (2)修士（数理学）(3)九州大学 (4)Universal Inference による線形混合モデルの分散パラメータの検定 (5)廣瀬慧 (6)2026年3月

● (1)穆佐飛来 (2)修士（数理学）(3)九州大学 (4)Estimation in the general linear model: General ridge estimator and Bayes linear estimator (5)佃康司 (6)2026年3月

● (1)納富崇 (2)修士（技術数理学）(3)九州大学

(4)異質性を考慮した因果探索による行政施策の
効果構造分析 (5)川野秀一 (6)2026年3月

博士論文

● (1)塩谷天章 (2)博士(数理科学) (3)東京大学
(4)Statistical inference for highly correlated point
processes with applications to lead-lag analysis (5)
吉田朋広 (6)2026年3月

● (1)吉田淳一郎 (2)博士(数理科学) (3)東京大
学 (4)Quasi-Maximum Likelihood and Penalized

Estimation for Non-Regular Models (5)吉田朋広 (6)
2026年3月

● (1)Ka Long Keith Ho (2)博士(数理学) (3)九州
大学 (4)Advances in Model Selection and Estimation
with Data-driven Thresholding and Adaptive Penalization
under Sparsity (5)廣瀬慧 (6)2026年3月

● (1)河面瑛太郎 (2)博士(数理学) (3)九州大学
(4)Asymptotic inference for models driven by heavy
tailed noise (5)増田弘毅 (6)2026年3月

7. 新刊紹介

会員からの投稿による新刊図書の紹介記事を掲
載します。

- [1] 題名：医療統計学入門 —医学・薬学研究の
ためのエビデンス構築—
- [2] 著者名：江村剛志, 大山哲司, 古川恭治, 道
前洋史, 室谷健太
- [3] 出版社：京都廣川書店
- [4] 出版年月：2026年3月
- [5] 価格：価格5800円 (+税)

内容紹介：統計学の基礎的な方法論から医療デー
タ解析への応用まで網羅的に解説。GitHub ウェ
ブに R コード, データ, 問題略解なども掲載

京都廣川書店 書籍ページ

[https://kyoto-hirokawa.co.jp/books/
detail.php?id=17746910101](https://kyoto-hirokawa.co.jp/books/detail.php?id=17746910101)

ISBN コード：978-4-910844-74-9

8. 学会事務局から

学会費払込のお願い

2026年度会費の請求書が会員のお手元に届いて
いることと思います。会費の納入率が下がると学
会会計に大きく影響いたします。速やかな納入に
ご協力をお願い申し上げます。便利な会費自動払
込制度もご用意しています。次の要領を参照の
上、こちらもご活用下さい。また、クレジットカード
での学会費払込も受け付けております。お
申込みは学会ホームページよりお願いいたしま
す。(https://www.jss.gr.jp/fee/).

学会費自動払込の問合せ先

学会費自動払込問合せの旨とともに、氏名と住
所を以下にお伝えください。手続きに必要な書類

が送付されます。

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6
能楽書林ビル5F

公益財団法人統計情報研究開発センター内
日本統計学会担当

Tel & Fax：03-3234-7738

E-mail：shom@jss.gr.jp

訃報

次の方が逝去されました。謹んで追悼の意を表
し、御冥福をお祈り申し上げます。

齊藤 善弘 会員

入会承認

栗国晴楽, 有竹俊光, 泉浩太, 任昶俊, 折原隼一郎, 佐竹尚, 滝沢京也, 津曲達也, 永井実葵, 寧博源, 日野雅喜 (敬称略)

退会承認

柏木宣久, 久保田理士, 辻井敦, 寺澤豊, 徳田智磯, 濱田充男, 林利治, 矢島敬二 (敬称略)

現在の会員数 (2026年2月20日)

名誉会員	12名
正会員	1,348名
準会員	5名
学生会員	73名
総計	1,438名
賛助会員	18法人
団体会員	7団体

9. 投稿のお願い

統計学の発展に資するもの, 会員に有益であると考えられるものなどについて原稿をお送りください。以下のような情報も歓迎いたします。

- 来日統計学者の紹介
訪問者の略歴, 滞在期間, 滞在先, 世話人などをお知らせください。
- 博士論文・修士論文の紹介
(1) 氏名 (2) 学位の名称 (3) 取得大学 (4) 論文題名 (5) 主査または指導教員 (6) 取得年月をお知らせください。
- 求人案内 (教員公募など)
- 研究集会案内
- 新刊紹介
著者名, 書名, 出版社, 税込価格, 出版年月をお知らせください。紹介文を付ける場合は100字程度までとし, 主観的な表現は避けてください。
- 会員活動紹介 (叙勲・受章, 各種受賞等)
できるだけ e-mail による投稿, もしくは, 文書ファイル (テキスト形式) の送付をお願い致します。

原稿送付先 :

〒102-0071
東京都千代田区富士見1丁目11番2号
東京理科大学経営学部経営学科内
朝日 弓未 宛
E-mail: koho@jss.gr.jp
(統計学会広報連絡用 e-mail アドレス)

- 統計学会ホームページ URL :
<https://www.jss.gr.jp/>
- 統計関連学会ホームページ URL :
<http://www.jfssa.jp/>
- 統計検定ホームページ URL:
<https://www.toukei-kentei.jp/>
- 住所変更連絡用 e-mail アドレス :
meibo@jss.gr.jp
- 広報連絡用 e-mail アドレス :
koho@jss.gr.jp
- その他連絡用 e-mail アドレス :
shom@jss.gr.jp